

企画展示 館内では、当財団の研究活動の紹介や、テーマごとに蔵書を紹介する企画展示を行っています。ご来館いただいた際に、ぜひご覧ください。

エントランスギャラリー 1F

「インバウンドによる
地域への経済波及効果」
(2018年7月～9月)

インバウンド需要は年々増加し、かつ短いスパンで変化しています。インバウンドによる経済効果を高めるにあたって必要な視点を整理し、視点ごとに先進事例を調査・分析した自主研究の成果の一部を紹介しています。



ガーデンラウンジ 1F

(継続展示中)

「旅の図書館
オススメの一冊」
(入れ替え展示中)

「一度は読みたい
観光研究書&実務書100冊」
(継続展示中)

「旅心を誘う、
旅の本のレジェンド30選」
(継続展示中)



古書ギャラリー 1F

40周年特別展示第1弾：
「出版物からみるジャパン・
ツーリスト・ビューローの歴史」
(2018年7月～9月)

当財団の前身であるジャパン・ツーリスト・ビューローは外客誘致機関として1912年に設立されました。時代背景にあわせて役割や名称なども変え、国やその他の観光関連機関とも連携しながら日本の観光・旅行の発展に尽力してきました。ビューローの歴史の一部を、代表的な出版物とともに紹介します。



展示ウォール B1F

当財団専門委員が選んだ
「わたしの一冊」
(継続展示中)

機関誌「観光文化」でリレー紹介いただいている当財団専門委員「わたしの一冊」も13冊になりました。

「インバウンド時代の観光振興財源」
(2018年7月～9月)

機関誌「観光文化」(7/10発行)の特集は「インバウンド時代の観光振興財源」。広範で難易度の高い取り組みを展開するために、法定外目的税としての宿泊税や入湯税などの導入・活用が注目されています。観光財源の基礎知識や国内外での導入事例などを紹介した関連図書を展示しています。



Information

旅の図書館開設 40周年記念事業について

1978年10月に東京・八重洲で開設した当館は、今年で40周年を迎えます。記念事業として、10月には機関誌「観光文化」40周年記念特別号の発行、たびとしょCafe特別版の開催、当館40年のあゆみを紹介する企画展示をおこないます。また、古書の新規購入とデジタルアーカイブ化などを進めるとともに、1F古書展示ギャラリーでは3回にわたる特別展示を開催します。



開設当時の当館

メールニュース会員に
ぜひご登録ください。

機関誌「観光文化」やその他の出版物、調査研究レポート、たびとしょCafeの開催案内、旅の図書館の新着図書情報や臨時休館のお知らせなど、当財団の最新情報が満載のメールニュースを毎月1回発行しています。ぜひご登録ください！

※公益財団法人日本交通公社のホームページ(トップページ)のフッターにメールニュース登録の案内があります。

たびとしょ

— 旅の図書館 News Letter —

Vol. 4

2018年7月号



「旅の図書館」TOPICS

当館の直近の様子をトピックスとしてお伝えします。

専門図書館協議会より 2018年度団体功績表彰を受賞しました！

当館は、専門図書館協議会総会・表彰式(6/27)において平成30年度の団体功績表彰を受賞しました。専門図書館としての活動に著しい功績のあった個人および機関を対象としているもので、当館は、蔵書の独自分類の構築や、図書空間を活かした研究交流の場の創出など、研究部門とも連携しながら学術研究機関の機能を高める図書館づくりが評価されました。今後も、引き続き、より魅力的な図書館づくりに尽力していきたいと思っております。

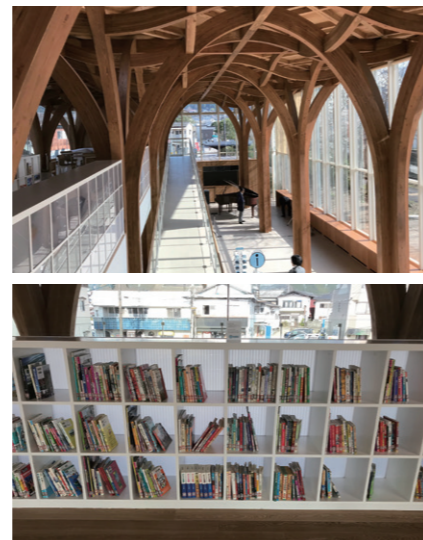
また総会の後6/27-28の2日間、『“情報氾濫社会”における専門図書館の価値を考える』をテーマとした全国研究会が開催されました。全国から集まった多数の専門図書館関係者とともに、当館もいろいろな分科会に参加しました。



※専門図書館協議会は民間企業や学会・団体、大学、官公庁などが設置する専門図書館の有機連携を図るとともに、その向上と発展に資することを目的に活動している団体です。1952年に設立され、現在374機関が加盟しています。

当館所蔵図書を寄贈した 由布市ツーリスト インフォメーションセンターが 完成しました！

4月1日、由布市ツーリストインフォメーションセンター(TIC)の完成式典が開催されました。TICはJR由布院駅に隣接しており、由布市内のみならず九州全域の観光情報を提供する観光案内所です。2階には当館移転の際に寄贈した約1500冊の蔵書を有する旅の図書コーナーがあります。図書館併設型のTICは住民の皆さんの意向が反映されており、観光客に加え市民も訪れたい空間になっています。



旅の図書館オススの一冊！

最近刊行された図書の中から当館のおすすめをご紹介します！



- 1 育て、磨き、輝かせる
インバウンドの消費促進と地域経済活性化**
公益財団法人日本交通公社 編著 ぎょうせい 2018年7月 A5判 187頁
インバウンド需要を地域経済活性化に結びつけるための実践のヒントがここにある。当財団研究員の現場取材を通して、成功事例だけでなく課題や苦悩をどう乗り越えたかも紹介。インバウンド施策、事業に取り組む地域・実務者にオススメの一冊！
- 2 観光地域学**
奥野一生 著 竹林館 2018年3月 A5判 270頁
様々な観光の現象や観光産業、観光地域の姿を観光地理学、交通地理学の視点から読み解き概観。観光学総論・観光学概論テキストとしても最適な書。
- 3 観光学全集第7巻 観光計画論 1 理論と実践**
梅川智也 編著 原書房 2018年3月 A5判 168頁
わが国には、計画的に観光地づくりに取り組むという考え方や、それを実現に向けて進めていくための「論」が乏しい。地域において望ましい観光のあり方を中長期的な観点から描いた数少ない「観光計画」論。観光地づくりの実務者にぜひ読んでほしい一冊。
- 4 トップも知らない星野リゾート
「フラットな組織文化」で社員が勝手に動き出す**
前田はるみ 著 [THE 21] 編集部 編 PHP研究所 2018年3月 四六判 238頁
「人を活かす」経営とは？「苔メン」「雲海仙人」など、登場する10人の個性豊かなスタッフのストーリーは、従業員一人一人のモチベーションが経営の原動力であることを再認識させてくれる。読んでいて楽しく、行ってみたいくなる。
- 5 自然保護学入門 ひとと自然をつなぐ**
筑波大学自然保護寄附講座 編 筑波大学出版会 2018年4月 A5判 252頁
自然保護の概念と歴史、地球の地図・水圏・気圏・生物圏とその保護、自然保護に関する法制度、保護地域、野生生物、エコツーリズム、景観保護、世界遺産など、自然保護学の基礎が学べる入門書。
- 6 未完の巡礼 冒険者たちへのオマージュ**
神長幹雄 著 山と溪谷社 2018年3月 四六判 304頁
植村直己、長谷川恒男、星野道夫・・・日本人の記憶に今なお残る登山家や冒険家たち。雑誌「山と溪谷」編集長も務めた著者による、今は亡き日本を代表する6人の登山家、冒険家たちとの交流と彼らの足跡を綴る邂逅の記録。
- 7 近代日本の旅行案内書図録**
荒山正彦 著 創元社 2018年5月 B5判 256頁
旅行案内書研究の第一人者により、明治初期から昭和戦前期に刊行された「旅行案内書」の系譜を初めて体系化。ビジュアルな図録に一冊一冊から、その時代のツーリズムの姿が浮かび上がってくる。当館が所蔵する古書も多数収録。
- 8 民家 最後の声を聞く**
藤木良明 著 学芸出版社 2018年4月 四六判 280頁
民家が生きていた最後の時期に、民家を訪ね、空間と人々の生き様を丹念に追い続けた記録。生活文化が大きく変わった現代社会の中で減りようとしている民家の声が聞こえてきそう。
- 9 文化財/文化遺産としての民俗芸能 無形文化遺産時代の研究と保護**
徳木悟 著 勉誠出版 2018年2月 A5判 320頁
有形のモノとは違い、形が無く、かつ人々の生活に埋め込まれ、いまなお変わり続けている祭りや民俗芸能などは、いかにして文化財/文化遺産となるのか。それらを保護する意義とその方法、そして研究のあり方について考察(出版社図書紹介より)。
- 10 地域名菓の誕生**
橋爪伸子 著 思文閣出版 2017年11月 A5判 484頁
地域そのものを贈り、味わい、万人で共有することの可能な、唯一の食べ物である地域名菓。その栄枯盛衰の物語。本書を読むと、地域名菓の味わい方が変わるかもしれない。

check/

『日本ナショナルトラスト報』が 創刊号から揃いました！

当館が所蔵する雑誌の一つに、公益財団法人日本ナショナルトラスト発行の会報誌『日本ナショナルトラスト報』があります。本誌を見ると、文化財保護に関する政策や活動の歩みがわかります。このたび、当館が所蔵していなかった時期の発刊号について同トラストよりご寄贈いただき、創刊号から現在までの発刊号をほぼすべて揃えることができました。今年50周年を迎えるトラストの活動の歴史を知る貴重な資料として、ぜひご覧ください。

